

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新入文学(9)
発行日	2012-12-20

〔彙報〕

平成二十三年年度 大学院文学研究科

◆ 学位論文題目一覧

博士學位論文

● 日本文化専攻博士（後期）課程

学位記番号	氏 名	博 士 論 文 題 目
博（文） 甲第3号	吉村 悠介	宮澤賢治研究 ―〔羅須地人協会〕と （イーハトウ童話）―

● 博士學位論文（論文博士）

学位記番号	氏 名	博 士 論 文 題 目
博（文） 乙第4号	竹ヶ原康弘	初期鎌倉祭祀の研究 ―鶴岡八幡宮の本質と 源氏三代将軍―

修士學位論文

● 日本文化専攻修士課程

氏 名	修 士 論 文 題 目
宋 林	日系企業における日本人と中国人の コミュニケーション・スタイルの違いについて ―面子とG・ホフステードの 4次元の文化差に基づく質的調査より―
陳 依汎	中国・台湾の日本語教育における 敬語教育のあり方 ―現代日本人「敬意表現」使用実態を踏まえて―
頼 怡瑄	台湾における日本文化の受容 ―皇民化運動期の国語普及運動を中心に―
水谷 圭子	「読解」の効果的な教育法の一考察 ―協働学習による日本語学習者の 自律性との関連で―

◆授業科目及び担当者

●日本文化専攻博士(後期)課程

授業科目		担当教員
古代文学特殊研究Ⅰ	小野寺静子教授	
古代文学特殊研究Ⅱ	小野寺静子教授	
古代文学特殊研究Ⅲ	小野寺静子教授	
比較文学特殊研究Ⅰ	テレンゲト・アイトル教授	
比較文学特殊研究Ⅱ	テレンゲト・アイトル教授	
比較文学特殊研究Ⅲ	テレンゲト・アイトル教授	
日本古代中世史特殊研究Ⅰ	追塩千尋教授	
日本古代中世史特殊研究Ⅱ	追塩千尋教授	
日本古代中世史特殊研究Ⅲ	追塩千尋教授	
仏教文化史論特殊研究Ⅰ(禅文化史論)	船岡 誠教授	
仏教文化史論特殊研究Ⅱ(禅文化史論)	船岡 誠教授	
仏教文化史論特殊研究Ⅲ(禅文化史論)	船岡 誠教授	
近現代史特殊研究Ⅰ	郡司 淳教授	
近現代史特殊研究Ⅱ	郡司 淳教授	
近現代史特殊研究Ⅲ	郡司 淳教授	

●英米文化専攻博士(後期)課程

授業科目		担当教員
英米社会文化特殊研究Ⅰ	岩崎まさみ教授	
英米社会文化特殊研究Ⅱ	岩崎まさみ教授	
英米社会文化特殊研究Ⅲ	岩崎まさみ教授	
欧米社会文化特殊研究Ⅰ	濱 忠雄教授	
欧米社会文化特殊研究Ⅱ	濱 忠雄教授	
欧米社会文化特殊研究Ⅲ	濱 忠雄教授	
英米思想文化特殊研究Ⅰ	上杉 忍教授	
英米思想文化特殊研究Ⅱ	上杉 忍教授	
英米思想文化特殊研究Ⅲ	上杉 忍教授	
欧米思想文化特殊研究Ⅰ	安酸敏真教授	
欧米思想文化特殊研究Ⅱ	安酸敏真教授	
欧米思想文化特殊研究Ⅲ	安酸敏真教授	

● 日本文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
日本文学特殊講義Ⅰ	小野寺静子教授
日本文学特殊講義演習ⅠA	小野寺静子教授
日本文学特殊講義演習ⅠB	小野寺静子教授
日本文学特殊講義Ⅱ	田中 綾 准教授
日本文学特殊講義Ⅳ	中村三春 講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順 教授
表象文化論特殊講義	大石和久 准教授
日本言語文化特殊講義Ⅰ	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠA	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠB	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義Ⅱ	菅 泰雄 教授
日本言語文化特殊講義Ⅲ	徳永良次 教授
日本言語文化特殊講義Ⅲ	門脇誠一 講師
日本歴史文化特殊講義Ⅰ	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠA	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠB	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義Ⅱ	船岡 誠 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅡA	船岡 誠 教授

授業科目	担当教員
日本歴史文化特殊講義演習ⅡB	船岡 誠 教授
日本歴史文化特殊講義Ⅲ	郡司 淳 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢA	郡司 淳 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢB	郡司 淳 教授
日本宗教思想史特殊講義Ⅱ	早島有毅 講師
北方文化論特殊講義Ⅰ	中村英重 講師
アイヌ文化論特殊講義	手塚 薫 教授
アジア文化論特殊講義Ⅰ	須田一弘 教授
アジア文化論特殊講義Ⅱ	李俊 鎬 講師

●英米文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
英米社会文化特殊講義Ⅰ	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊講義ⅠA 演習	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊講義ⅠB 演習	岩崎まさみ教授
英米歴史文化特殊講義Ⅰ	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義ⅠA 演習	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義ⅠB 演習	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義Ⅱ	上杉 忍教授
英米歴史文化特殊講義ⅡA 演習	上杉 忍教授
英米歴史文化特殊講義ⅡB 演習	上杉 忍教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅰ	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠA 演習	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠB 演習	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅱ	太田敬子 講師
英米思想文化特殊講義Ⅰ	柴田 崇准教授
英米思想文化特殊講義Ⅱ	川上武志教授
英米思想文化特殊講義ⅡA 演習	川上武志教授
英米思想文化特殊講義ⅡB 演習	川上武志教授
英米思想文化特殊講義Ⅲ	瀬名波栄潤 講師
英米言語文化特殊講義Ⅰ	上野誠治教授
英米言語文化特殊講義Ⅱ	米坂スザンヌ教授
英米言語文化特殊講義ⅡA 演習	米坂スザンヌ教授

授業科目	担当教員
英米言語文化特殊講義ⅡB 演習	米坂スザンヌ教授
欧米思想文化特殊講義Ⅰ	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊講義ⅠA 演習	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊講義ⅠB 演習	安酸敏真教授
欧米思想文化特殊講義Ⅱ	佐藤貴史 准教授

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇一二年一度第一回「全体ゼミ」(修士課程二年および博士課程・中間報告) ー七月七日(土) (9:30~16:40)、本学D42番教室にて開催された。修士課程二年に在学する10名および博士課程二年に在学する1名の大学院生が、次のような題目で、修士論文および博士論文の構想とそ

の一部を発表した(参加者約40人)。

○修士課程

小玉知輝「菅原道真の怨霊とその影響」

岩佐有子「真言立川流の思想的意義」

楊 紅敏「日本語の感謝場面における感謝表現の研究

ー使用実態と日本語教育への示唆」

李 涵明「中国人学習者の日本語授受動詞の使用に關

しての考察」

藤川清則「アイヌ民族の文化と観光」

齋藤千代子「遠藤周作の文学と信仰についてー『深い

河』を中心にー」

大原智明「夏目漱石の物語における〈山〉」

内田幸子「大伴旅人の『讃酒歌』に影響を与えた憶良

と漢籍」

内平淳一「『われ逝くものごとく』とは何かーある

いは、全体性と個別性の両義性についてー」

山本侑奈「美意識としての「いき」ー九鬼周造『「いき」の構造』批判」

○博士課程

塩濱健児「『歴史主義とその諸問題』におけるトレルチのヘーゲル像」

◎二〇一二年一度第二回「全体ゼミ」(修士課程一年・中間報告) ー十一月十日(土) (10:00~12:45)、本学D42

番教室にて開催された。修士課程一年に在学する4名の大学院生が、次のような題目で、修士論文の構想を発表した(参加者約40人)。

高橋 昭「神仏習合の発生要因と律令国家」

山田 航「木下利玄と歌誌『日光』」

佐藤公美「ACTFL-OPFにおけるテスト間の差についての考察」

大島直樹「ブラウン判決における国際的見地」

編集後記

●『年報 新人文学』第9号をお届けします。追塩千尋氏が論文と研究ノート、岩崎まさみ氏が研究ノートと書評をそれぞれ執筆しているところから容易にわかるように、掲載予定の記事に大きな変動が複数生じました。右の執筆者のご協力にもかかわらず、編集子の力が足らず、本号は掲載論文数がこれまででもっとも少ない結果となつてしまいました。諸氏のご研鑽の成果を十全に反映することができず、たいへん申しわけなく思います。この反省に基づいて次号では編集作業の過程を徹底的に見直し、改善いたします。

●ところで、右の変動は、編集子の不手際の結果であると同時に、この年報において査読制度が厳格に実施されていることの証左でもあります。査読にあたられ、貴重な指摘をしてくださった先生方にこの場を借りて心よりお礼を申しあげます。

●本号では、はじめて「論文」と「研究ノート」の両分類にいずれも横組み記事が加わりました。そのための準備は前編集委員によつて周到におこなわれてきましたが、いざできあがりを見てみると、全体のページ構成および投稿規定に部分的な変更を加える必要が発見されました。それらも次号への課題したいと思います。

●巻頭言を執筆された小野寺静子氏は今年度をかぎり年に定年退職されます。『万葉集』、とりわけ大伴家持を中心とする歌人たちの歌を研究され、大学院においても院生たちを宮廷サロンの文学世界へと誘ってくださいました。先生が論文指導の過程で（もちろん中間発表会後の酒席においても）、院生とのあいだに濃密な人間関係を醸成されているのを目の当たりにして、驚きと同時に一抹のうらやましさを感じました。どうか今後も引きつづき学生ともども私たちにご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

●年報の発刊まぢか、十二月七日、パリ、ユネスコ本部で開催中の無形文化遺産保護条約・政府間会議において、日本政府が申請していた「那智の田楽」が無形文化遺産代表リストに登録されました。この条約は、すでに四十年の歴史をもつ「世界遺産」（世界の文化遺産と自然遺産の保護に関する条約）とは別に、無形文化を保護するために運用が始まったばかりのものです。編集子も日本代表団の一員として会議場でその決定を聞き、他の代表たちと喜びを分かち合いました。

（岩崎まさみ・大谷通順）

『年報 新人文文学』投稿規定

一、『年報 新人文文学』は、人文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。

二、投稿原稿の著者は、当人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。

三、原稿は、原則、日本語とし、縦書き、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。

①原著論文で未発表のもの、四〇〇字詰原稿用紙五〇頁程度。

②研究ノート・資料・報告など、四〇〇字詰原稿用紙三〇頁程度。

③書評など、四〇〇字詰原稿用紙一〇頁程度。

④その他、編集委員会が必要と認めたもの。

四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報 新人文文学』編集委員会